

平成23年度一般会計当初予算説明資料

3 款 民生費

2 項 児童福祉費

子育て支援総室 [子育て応援室] (内線：7148)

1 目 児童福祉総務費

(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) とっとりイクメンプロジェクト推進事業	5,837	0	5,837			(基金繰入金) 5,837		
トータルコスト	7,435千円 (前年度 0千円) [正職員：0.2人]							
主な業務内容	広報、補助金交付事務							
工程表の政策目標(指標)	地域で子育てを応援する機運の醸成を図るとともに、子育て家庭への総合的な支援施策を展開する。							
事業内容の説明								
<p>1 事業の目的・概要</p> <p>父親の育児参加を促進することにより、母親の育児の負担感を軽減することを目的として、意識啓発に関する事業を行う。</p> <p>2 主な事業内容</p> <p>○委託先 公募により決定</p> <p>○業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー等開催事業 (父親向け 3回、企業向け 3回、シンポジウム 1回) ・広報事業 父親の育児参加に向けた広報冊子作成 (父親向け年 2回、企業向け 1回) <p>○予算額 5,837千円 (安心こども基金)</p> <p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度に実施した「鳥取県少子化対策アンケート調査」によると、夫婦の出生力の低下要因として、「育児・教育の経済的負担感」に次いで、「仕事と子育ての両立困難」「母親の精神的・身体的負担感」が上位に挙げられている。 ・行政及び地域(個人、子育て支援団体、企業)が子育て家庭を支えていくことはもちろんであるが、母親の負担感を解消するためには、最も身近な父親が育児に参画することが効果が高い。 ・現状としては、父親の育児休業取得率、家庭内の育児・家事の割合を見ると、父親の育児参加が進んでいるとは言えず、父親への意識啓発が必要。 ・平成22年度には、「子育て支援モデルプロジェクト事業」により、ファザーリング・とっとりが開催する「パパ力養成セミナー」の開催を支援するなど、県として子育て支援、男女共同参画の両面で男性の育児参加に向けた事業を実施。 								